

復活節第6主日 ヨハネ15章9―17節

「新共同訳」

（1）「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。2 わたしにつながっていないが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。」

3 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。4 わたしにつながっていないなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。

5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。6 わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。」

7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。8 あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。

9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。

10 わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

11 これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。

12 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。13 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。14 わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15 もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。

16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出て行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。17 互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

① 7―17節の構成

① ヨハネ15章1―17節は二つの段落に分けて見ることができる。第一の段落（1―6節）では「ぶどうの木のとえ」を述べ、第二の段落（7―17節）ではこのたとえをいつそう掘り下げ、その意味を説いている。そこで、7―17節を一つの段落として捉え、その構成を考えると、11節（d）を中心として、その両側に対応する三つの層（aとa'、bとb'、cとc'）で囲む形が採られているのが分かる。対応する表現は次のようになる。このような構成から考え、中心に置かれた「喜び」が全体をまとめ上げる言葉となる。

a なんてあれ願いなさい、それはなる。

あなたがたは実を結ぶ。私の弟子となる。（7―8節）

b 父が私を愛したように、

私もあなたがたを愛した。（9節）

c 私の掟を守るなら、

私の愛のうちにあなたがたは留まるだろう。（10節）

d 私の喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされる。（11節）

c' これが私の掟、互いを愛すること。

あなたがたは私の友である、私が命じたことを行うなら。（12―14節）

b' あなたがたを友と言った。

父から聞いたことを私は知らせた。（15節）

a' 私があなたがたを選んだ。あなたがたは実を結ぶ。

なんであれ願う、彼が与える。（16―17節）

② 掟を守るようにと呼びかけるのは

① 私の子となる（7―8節・a）

ここでは、「私」と「父」と「あなたがた」が登場し、互いの交わりが明確にされる。最初にイエスと弟子との交わりが「留まる」（つながっている・いつもある）という言葉によって表される。

もし あなたがたが留まるなら 私のうちに

そして 私の言葉が あなたがたのうちに 留まるなら、

7節では「あなたがたが私のうちに留まる」が、「私の言葉があなたがたのうちに留まる」と言い換えられている。イエスに留まれば、イエスの「言葉」も留まる。この「言葉」は、内面を清めるだけでなく（3節・ロゴス）、出来事を生み出す言葉（レーマ）である。この言葉が私たちに留まるかぎり、何でも願うことができ、その願いはかなえられる。言葉によって清められ、御父と御子の交わりに招き込まれており、私たちの思いと父の思いに隔たりがないからである。こ

うして私たちは「多くの実を結び」、イエスの「弟子となる」ことによって、父の素晴らしさ（栄光）を表すこととなる。

⑥私の愛（9節・b）

父なる神がイエスを「愛した」ように、イエスも弟子たちを「愛した」。弟子たちを愛するイエスの愛は、人間的な愛ではなく、神からの愛である。この比類のない愛を体験したイエスが、その体験にもとづいて「私の愛のうちに留まりなさい」と呼びかける。

⑦私の掟を守るなら（10節・c）

イエスの愛に留まるには、イエスが「父の掟を守って、その愛のうちに留まるように」、弟子たちもイエスの「掟を守る」必要がある。イエスの従順に倣ってその掟を守るなら、イエスの「愛のうちに留まるだろう」という未来が開かれる。

⑧私の喜びとあなたがたの喜び（11節・d）

これらを 私は話した あなたがたに
ようにと 私の喜びが あなたがたのうちに ある
そして あなたがたの喜びが 満たされる。

12節から掟の内容が告げられるが、その前にここでは掟を語る目的が明らかにされ、弟子たちの「喜びが満たされる」ためだとされる。しかし、この喜びはイエスからの「喜び」であり、さらにもとをただせば、父との愛による交わりがイエスにもたらす喜びである。弟子たちがこの交わりに含み込まれるとき、神からのイエスの「喜び」が彼らに流れ込む。この喜びは「満たされる」喜びであるから、欠けたところのない完全な喜びである。「掟を守る」ようにと呼びかけるのは、この喜びに招き入れるためである。

⑨私の掟とは（12―14節・c）

これが ある 私の掟で、
つまり あなたがたが愛する 互いを
ように 私が愛した あなたがたを。

10節（c）ではイエスの「掟」がもたらす結果を述べていたが、この12―14節（c）では掟の内容そのものが明らかにされる。イエスが示す掟は「あなたがたが互いを愛することであるが、この掟には「私があなたがたを愛したように」という説明句がついている。神の愛を受けたイエスが私たちを愛しているのであり、この愛の中で「互いを愛する」ようにと期待されている。

これより大きい 愛を 誰も持たない、
つまり ある人が 彼の命を **置く** 彼の友たちのために。

13節ではイエスの愛が語られている。「自分の命を友のために置くことより大きい愛はない」とあるから、十字架に示されたイエスの愛を指すだろう。

あなたがたは 私の友たちで ある、

もし あなたがたが行なうなら
ところのことを 私があなたがたに命じる。

14節では、最初に「あなたがたは私の友である」と述べてから、その条件に触れ、「私が命じたことを行なうなら」と説く。条件を後に述べるのは、「私の友である」を強調し、イエスの友となるといふ希望の中で、掟の実行に向わせるためである。

① 父から聞いて友に知らせた（15節・b'）

僕は主人の行くことを知らない。しかし、イエスは父から聞いたことをすべて弟子に知らせた。だから、弟子はイエスの友である。

⑧ 私が選んだ（16 | 17節・a）

あなたがたが 私を 選んだのではない、

そうではなく 私が 選んだ あなたがたを

そして **私が置いた** あなたがたを

ようにと あなたがたが 赴く

そして 実を あなたがたが結ぶ

そして あなたがたの実が 留まる

ようにと なんてあれ あなたがたが願う 父に 私の名で、

彼が与える あなたがたに。

弟子たちがイエスを選んだのではなく、「私が」彼らを選んだ。このようにイエスのイニシアチブを強調した後で、「（あなたがたを）置いた」と述べる。何のために置くかと言えば、「あなたがたが赴く、そして実を結び、その実が留まる」ためであり、また「私の名で父に願うなんてあれ、父が与える」ためである。ここで「置いた」と直訳した語を新共同訳は「任命した」と訳しているが、この語は13節で「（命を）置く」と直訳した動詞と同じである。十字架に命を置くイエスが、同じ愛をもって、弟子を使命へと置く。

弟子たちが「赴いて、結ぶ」実とは、宣教の実りのことだと思われる。またイエスの「名」で父に願うことはかなえられるのだが、ここでの「名」はイエスとの関わりを表しているだろう。イエスとの人格的な交わりに身を置いた者は、父とイエスとの交わりに入ったのであるから、その祈りは必ず聞き入れられる。

③ 私が愛したように、互いに愛し合いなさい

① メッセージの中心は「私の喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされる」とにある（d）。この喜びは「私の掟」を守るときに与えられるが（cとc'）、それ以前に、イエスが神からの愛によって私たちが愛している（bとb'）。この愛に留まるなら、私たちは実を結ぶことができる（aとa'）。

② 実を結ぶためには「まことのぶどうの木」に留まることが不可欠である。私たちが愛するより先に、神とイエスが私たちが愛している。この愛に留まる時、人は神が与えるいのちにあずかる。互いを愛し、イエスの喜びに満たされ、喜びをもたらす者とされる。